

当社は、これまでキリン独自素材の乳由来成分「βラクトリン」について研究を進めてきましたが、研究を進める過程で「βラクトリン」である「GTWY ペプチド」以外の WY 配列を有する認知機能改善ペプチドを確認しました。今後の可能性も含めて、これらの総称を「βラクトペプチド」とすることし、2020年12月以降の研究成果に関する発表については、「βラクトリン」のことを「βラクトペプチドの1つである GTWY ペプチド」と表記します。

2020年12月24日（木）

2020年11月18日

～キリン・ファンケル・浜松市の協働で、浜松市民の「健康」に貢献～ 嗅覚機能・自律神経活動と気分・ストレスの関連性を 探索する調査研究を開始

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典、以下キリン）のキリン中央研究所（所長 出内桂二）は、2020年11月22日から株式会社ファンケル（社長 島田和幸、以下ファンケル）と静岡県浜松市（市長 鈴木康友、以下浜松市）の三者で協働し、浜松市民を対象とした「嗅覚機能・自律神経活動と気分・ストレスの関連性を探索する調査研究」を開始します。

なお本件は、2019年に資本業務提携を行ったキリングループとファンケルの共同による取り組みの一環です。

超高齢社会の到来や昨今の社会環境の変化などにより、精神疾患の罹患者は増加しており^{※1}、メンタルヘルスの維持やそのサポート体制の構築は重要な社会課題となっています。精神疾患は、受診時には症状が進行していることが多いため、日常生活の中で気分変動やストレスのかかった状態を把握し、早期に適切な対応を取ることが重要です。しかし気分の低下やストレスによる精神状態の悪化は自覚しにくいことから、日常的に簡便に測定できる客観的な指標が求められています。最近の研究では嗅覚機能、自律神経活動および唾液成分と、気分・ストレスが関連していることが報告されていますが、日本人を対象とした研究は十分ではありません。

キリンとファンケルは、「脳機能」に関する社会課題の解決を目指した共同研究を進めています^{※2}。また、浜松市、市内の医療機関や大学、参画企業などと共に設立した「浜松ウエルネス・ラボ^{※3}」を通じて、同市民の健康づくりに役立つ取り組みも行っています。2020年9月からは、キリンと聖隷福祉事業団の共同による、βラクトリンを用いた軽度認知機能障害（MCI）を対象とした特定臨床研究を開始しており^{※4}、これにファンケルも参画しています。

このたび、キリン、ファンケルおよび浜松市が協働し、嗅覚機能・自律神経活動と気分・ストレスの関連性を調べる調査研究を行うことで、「健康」に対する未充足ニーズの解消を進めるとともに、浜松市民の皆さまの健康増進や「予防・健幸都市浜松」の実現にも貢献していきます。

● 調査概要

浜松市民を中心に、香りの識別機能を評価することによる、嗅覚機能、自律神経活動および唾液成分の検査を行います。併せて、質問紙を用いて気分・ストレス状態との関連を調査します。

- (1) 募集期間：2020年11月～2021年8月
- (2) 対象者：40歳以上75歳以下の男女（360名を予定）
- (3) 内容：嗅覚テスト、自律神経測定、唾液回収、気分状態に関する質問紙への回答

● 期待される成果

本調査でのエビデンスを活用し、気分・ストレス状態や健康状態の変化を早期に把握できるサービスやソリューションの開発を、キリンとファンケルが連携して検討します。また浜松市民が自身の気分・ストレス状態を知っていただく機会をつくり、メンタルヘルスクアの重要性の啓発活動へつなげていきます。

キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します。

- ※1 厚生労働省「患者調査」より 厚生労働省障害保健福祉部作成
- ※2 2020年1月30日リリース「脳機能」をターゲットとした共同プロジェクトを開始」
https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0130_02.html
- ※3 2020年2月18日リリース「静岡県浜松市に「浜松カエルズ・ラボ」を設立」
https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0218_01.html
- ※4 2020年9月30日リリース「βラクトリン」を使い軽度認知機能障害（MCI）を対象に特定臨床研究を開始」
https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0930_01.pdf